

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3577400066		
法人名	社会福祉法人鹿野福祉会		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地	山口県周南市大字鹿野上2755番地の1		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果市町受理日	平成29年6月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年11月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

生活の中でも大きな比重を占める食事の楽しみを特に重視しており、毎食手作りの温かい食事を提供している。また、今年度は外出活動にも力を入れており、時間の許す限り外出を行い、ホームの中だけの生活とならないよう配慮している。また、法人内部での調整を行うことで一度法人の利用者となられた方の行き先がなくなることはないよう、情報調整や協力を行うことで在宅から末期の施設での生活に至るまでカバーで来る体制を持っている。人事異動はあるが、退職率が非常に低いことから利用者はいつものなじみの職員との生活を送ることができる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人の他事業所で栽培された野菜や事業所の畑で採れた野菜、地域の人から差し入れられた野菜など、旬で新鮮なものを使用されて、三食とも事業所で職員が交代で調理しておられます。食器は、一品毎に季節や料理に合わせたものを使用され、見た目からも美味しく食べられるように工夫しておられます。戸外でのバーベキューやさんま焼き、ソーメン流しの他、行事食や誕生日食、外出時は弁当を買って食べられたり、家族との外食など、利用者の食事が楽しめるように支援されています。職員は、利用者の尊厳を大切にされ、言葉が冷たくならないように、職員会議で言葉づかいについて話し合わせ、誇りやプライバシーを損ねない、利用者にあった言葉かけや対応をしておられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所の理念を職員会議の前に唱和し、共有することで実践を行っている	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、法人の理念と併せて、月1回の職員会議の前に唱和し、理念の確認をして共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での催しごとにはできうる限り参加し、地域の中にある生活を失わないように援助している。	小学校の運動会への参加や、地域で年2回ある市場に出かけたり、併設施設に訪訪している幼稚園や保育園の園児とのふれあいや、踊りやカラオケなどの演技を見学している。年1回、児童遊園の園児が来訪し、歌や踊り、ゲーム、おしゃべりなどで交流している。法人の盆踊り大会には、地域の人がたくさん参加し、利用者と交流している。大学生の実習の受入れや、年2回(盆、年末)散髪ボランティアの来訪がある。散歩の途中で地域の人と言葉を交わしたり、柿や野菜の差し入れがあるなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護従事者初任者研修を法人として実施し、その中で講師を務めることで地域への発信を行っている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎回の外部評価については職員に対しても内容を周知し、改善に向けて話し合いながら業務を行っている	管理者が一部の項目について、職員から聞き取りをして自己評価している。全職員で評価に取り組むまでには至っていない他、前回の外部評価結果を活かした改善に取り組むまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員での自己評価の取り組み</li> <li>・評価を活かした取り組み</li> </ul>
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	終了後、評価が確定したのちには、内容を配布し、周知している。	会議は、2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や事業所の取り組み状況、ヒヤリハット、事故などについて報告し、話し合っている。熱中症の予防についての意見から水分補給に取り組んだり、薬の配布の仕方や服薬時の飲み方について改善しているなど、意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ電話相談や訪問相談を行える体制が整っている。	市担当者とは、運営推進会議時に情報交換している他、管理者が電話や直接出向いて相談して助言を得ているなど、協力関係を築いている。法人内に地域包括支援センターがあり、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実施事例はない	マニュアルがあり、職員は法人研修で身体拘束について学び、正しく理解しており、抑制や拘束をしないケアを実践している。玄関は施錠していない。スピーチロックについては、職員同士で注意しあったり、管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で行われた虐待研修に参加し、その必要性を理解している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で自立支援事業、成年後見の利用者なし、必要に応じて研修を行う		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、申込などの際には2時間程度の時間をとっていただき、理解度を確認しながら説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年一回の懇談会にて意見交換を行い、反映させている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。電話やメール、面会時、敬老会、行事の時、家族懇談会(年1回)などで、家族から意見や要望、苦情等を聞いている。毎月介護相談員が来訪し、利用者の話を聞いて事業所に伝えている。家族からのケアについての要望には、その都度対応している。運営に反映させるまでの意見はでない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見については可能な限り詳しく聞き、必要であると判断されるものについては可能な限り即時実行する。	管理者は、月1回の職員会議や朝の申し送り時に職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で、職員から意見を聞いている。職員増員についての意見があり、法人全体の課題として、人材確保について検討している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	勤務評定を通し、個々人の頑張りや、姿勢を評価するとともに、可能な限りの超過勤務の削減に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として職員を育てるための研修を数多く実施している。 また、外部研修についても必要に応じ参加を行う	外部研修として、管理者が社会福祉士として社会福祉士研修に参加している。グループホーム協会周南圏域の研修に2名の職員が参加している。法人研修は2ヶ月に1回、不定期に実施しており、参加できる職員が学んでいる。内部研修は、3回実施している。認知症の研修として「アリセプト、メモリーを知ろう」「自立度を知ろう」「日常生活」について学んでいる。	・研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が山口県宅老所・GH協会の理事を務めており、その研修の情報などについて職員へ提供、研修の場でのネットワークづくりを行っている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の初期に関しては本人の嗜好や性格、ニーズなどを特に注意して把握し、職員同士引き継ぎの時間を用いて情報共有を行っている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入のみならず利用中、退所後についても必要な相談援助、情報提供を行っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護度を基本的な指標として、適切な事業所へ紹介する体制が法人内で整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や日常の作業などを共に行うことで共存・共生するホームのあり方を目指している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて家族へ通院の付き添いやそのほかの手続きなどを依頼できる体制が整っている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	回数は多くはないが実家訪問などを通して本人と、本人が生きてきた社会が切り離されてしまわないよう配慮している。	家族の面会や親戚の人、友人、知人などの来訪がある他、電話の取りつきや、年賀状や手紙での交流を支援している。家族の協力を得て一時帰宅や、行きつけの美容院の利用、結婚式への出席、買い物、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のパワーバランスや人間関係に関しても援助を行っているが、完全にとはいかない		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の相談などについても受け付けており、必要に応じてフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意思に沿えるよう、それが困難な場合に会っても利用者第一の精神をもって本人本位の生活ができるよう配慮している。	入居時の基本情報やセンター方式のシートを活用している他、日常の関わりの中での利用者の言葉や様子をケース記録に記録して、利用者を担当している職員が1ヶ月毎にまとめて個別援助計画表に記録し、利用者のできること、したいこと、思いなどの把握に努めている。困難な場合は、家族や関係者から聞き取り、職員間で話し合っって検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込みの段階でアセスメントを行い、さらに入所時にも再アセスメントを行うことで利用前のエピソードや経過などについても積極的に取得している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的に日課は設けておらず、その中で自らが望むことをして過ごせるよう配慮している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実践をしている、家族の希望などについては面会時などに聞き取りを行い、プランに取り入れている	利用者の思いや家族の意向、かかりつけ医や看護師の意見を参考にして、利用者を担当している職員が作成した原案を、カンファレンスで話し合い、職員間で検討して、計画作成担当者が介護計画を作成している。3ヶ月に1回、モニタリングをして見直しをしている。他、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直しをして、現状に即した計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月末に本人の記録を作成し、それをもとに介護計画を作成する。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法と、公共の福祉に反しない限りにおいて、利用者本人の求めること、家族の求めることには最大限の努力をもって対応する。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や、日常的なニーズの解消などにおいて、最大限地域資源と結び付けられるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族の希望に応じ、かかりつけ医への受診を行っている。その都度、必要な情報提供を行うことにかかりつけ医との関係性もスムーズに行くよう配慮している</p>	<p>家族の希望を大切にして、納得を得た上で協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関からは月2回の訪問診療がある。専門医などの他科受診は、家族の協力を得て行い、利用者の状態などの情報は、管理者が医師に伝えている。法人事業所と兼務している看護職が、利用者の健康管理や職員の相談に助言している。緊急時には、協力医療機関と連携し、看護職のオンコールや管理者が対応して、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>必要に応じ、実施している</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>実施している</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアについては囑託医の方針上、行った経緯はないが、その内容については入所時に説明し、同意をいただいている</p>	<p>重度化対応の指針に沿って、事業所のできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、医師に相談して家族と話し合い、カンファレンスで検討して、入院や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。</p>	
35	(15)	<p>○事故防止の取り組みや事故発生時の備え</p> <p>転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。</p>	<p>一人一人の危険性を把握し、可能な限り日常生活の中にあるもので本人の活動を制限せずリスクを取り除けるよう配慮している。</p>	<p>事例が発生した時には、ヒヤリハット報告書、事故報告書に、その場にいた職員で話し合っ、発生状況や対応策を記録した後、管理者が見直して、全職員に回覧して共有し、介護計画に反映して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。</p>	<p>・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の防災訓練、避難訓練を通して発電機の使い方などにも習熟している。また、避難訓練を通して地域の協力員との協力体制をとっている。	年2回、地域の災害協力員や消防団員の参加を得て、法人合同で、夜間の火災や水害を想定した避難訓練を実施している。簡易タンカを利用して、4人1組で避難場所までの実践的な訓練を行っている。法人と地域の協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の特性や、傾向により、冷たすぎない言葉を選択することで尊厳を維持しながら、生活の場として過ごしていただけるよう配慮している	利用者の尊厳を大切にして、言葉が冷たくならないようにして、職員会議で言葉づかいについて話し合い、職員は、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。気になることがあれば、管理者が注意している。個人記録は保管し取扱いに注意している。守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望については可能な限り聞き取り、本人の自己決定に基づいて実行する		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内での作業に関しても、利用者の希望に応じ共に行うことでその人のそれまでの生活や好みを		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服、好みの色などを把握しており、必要に応じて助言や協力を行う		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に 대해서는すべて手作りでを行い、野菜の皮むきや方付けなどに関しても危険のない範囲で共に行う	法人の障害者施設で栽培した野菜や事業所の畑で採れた野菜、地域から差し入れの野菜、地元の米など旬で新鮮なものを使用して、三食とも事業所で職員が交代で調理している。利用者は、野菜の下ごしらえや台拭き、下膳など、職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、同じものを食べながら会話している。おやつとして、利用者が、新しょうがの皮むきをしてしょうが湯をつくったり、ぜんざいは、白玉粉に変えて、豆腐を利用して窒息しないように工夫している。おせち料理や誕生会の食事、外出時には弁当を買って食べたり、戸外でのバーベキュー、さんま焼き、ソーメン流しなど、食事が楽しめるように支援している。食器は、料理一品毎に料理に合わせたものを使用し、季節感に配慮して、見た目からも美味しく食べられるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現状ですべての利用者はトイレを使用しており、補助的にパットやリハビリパンツを使用している	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた言葉かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や、食材の選択により可能な限り予防が行えるよう配慮し、困難である場合には嘱託医との相談により適切な薬剤の使用を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日に決めているが、たイニングに関してはその都度利用者に確認し、可能な限り本人の望むタイミングに入浴できるよう配慮している	入浴は、10時20分から昼食前までと、14時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて、週3回はゆっくり入浴できるように支援している。入浴時は、歌を歌ったり、職員と会話したり、入浴剤を使用して色や香りを楽しんでいる。利用者の状態に応じて、シャワー浴や足浴、清拭などで対応している。入浴したくない人には、タイミングをずらしたり、声かけに工夫して入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報について全員が確認できるように配置しており、また、新しい薬剤については効き目や副作用について周知を行っている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている、草抜き、ゴミ捨て、掃除、野菜の皮むきなど日常生活に役割を持つよう配慮している	テレビ視聴、おしゃべり、ぬり絵、計算ドリル、季節の飾りづくり(七夕飾り、クリスマスツリー)、パズルゲーム、ジグソーパズル、風船バレー、ボール投げ、野菜の水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、雑巾縫い、繕いもの、テーブル拭き、下膳、ゴミ袋に名前を書く、ゴミ出しなど、一人ひとりのできることを把握して、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いのある日が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	里帰り外出や、車でのドライブなどを行っており、状況の許す限り閉じこもりの生活とならないよう支援を行っている	神社参り、季節の花見(桜、紫陽花、コスモス)、山野草見物、散歩やゴミ出しなどの他、家族の協力を得て、行きつけの美容院の利用、結婚式への出席、買い物、外食など、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の必要に応じて立て替え払いが行える体制が整っているため、現在、自分で現金を持っている利用者は一人のみである		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて実施しているが、本人が書けることよりも、家族からかかってくることを喜ばれる傾向が強いため、その旨をご家族に伝えるなどしている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている	リビングダイニングの大きな窓から自然の光が差し込んで明るく、広々としている。目の前に自然が広がり、季節の移り変わりを感じることができる。テーブルや椅子、テレビ、ソファを配置し、季節の花を生けたり、壁面に季節に合わせた飾りをしている。キッチンで調理している職員の様子が見えたり、調理の音や匂いがして生活感もある。温度、湿度、換気配慮して、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている	整理ダンス、寝具、衣類、テレビ、CDラジカセ、時計など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、家族の写真や自分の作品、人形などを飾って、利用者が安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っている		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームせせらぎ

作成日: 平成 29 年 2 月 18 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		自己評価に職員全員が参加することができていない	職員参加による自己評価の作成	職員会議において自己評価内容を検討し、作成する	6ヶ月
2		事業所単位での研修の実施頻度が少ない	研修の充実	朝の引き継ぎ後の短時間の研修を実施し、積み重ねることで職員の資質の向上に資する	12ヶ月
3		事業所単位での研修記録	法人とまとめた作成ではなく、事業所として単体で作成し保存することが望ましい	上記研修などを実施し、記録についても単体で保管を行う。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。